



平成 25 年 5 月
No. 47

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
巴会庶務担当 長谷川 豊 教授 Tel・Fax (052) 735-5564
ホームページ: <http://tomoe.web.nitech.ac.jp/>

巻頭言



「Re-Union」

巴会関東支部長
北野 良幸

「デトロイトに同窓会組織化の準備が進んでいる。」先日の巴会理事会での雑談である。最近の海外留学卒業生を核とした海外同窓会とはまた違った形態である。デトロイトには多数の卒業生が赴任しており、また業務で彼の地を訪れる卒業生も多い事からの発案らしい。関東には全学の同窓会組織である工業会の東京支部と各単科会の関東支部が組織されている。新たな支部、海外支部設立の動き等聞こえると、昨今の当支部活動が停滞気味に感じられる。

私の巴会との付き合いは、記憶を遡れば、平成5年に始まる。要請を受け、巴会関東支部幹事へ就任はしたものの、会の活動には左程熱心でも無く、大学との交流も殆ど無い状態であった。最近、全学の同窓会組織である名工会の役員に就任し、平成24年度には巴会関東支部長を拝命した。決して短くない時間、身を巴会関東支部に置きながら、あまりに疎遠だった事を残念に思い、そして同窓会の活動の活性化を願うようになっている。

関東支部長に就任し、巴会の定例会で大学を訪れるようになって、大学の変貌を知るにつれ少しずつ興味が湧いてきた。独立法人化の影響も少なからず在るのであろうが、大学独自色を打ち出そうとの意気込みが感じられる。大学は次の100年を目指し、大学憲章を制定、総合戦略本部を設置して、社会ニーズに即応すべくタスクセンターを設置する等々経営的姿勢が見える。学生は、たとえ

ばフォーミュラプロジェクトに携わった人たちの話では、その経験が現在の仕事にも活かされて居る事からも、大学教育の大事な一面を実感した気がする。モノづくりに拘り、それが製品として社会的・経済的価値ある事を理解する人材育成である。ふと我々は在学時、キューポラ溶鋼で铸込みの実習をやり、機械工場で実験に使うテストピースを手作りした事を思い出した。

世のニーズに応じて大学が変貌する様に、同窓会も変わってゆくのだろう。同窓会の理念として大学を支援するという事には変化はない。それに加えて、大学卒業直後の社会生活を第1とすれば第2、3の社会生活の基盤構築の場と言う側面も可能ではないか。会の活動が変化し活性化する為には、会員の増強を図らなければならない。先ず今日の大学の姿を知って貰いたい。共感出来る、頷ける部分が必ず見つかると思う。大学を知って、話題・課題を共有する事で同窓としての環が繋がる。卒業生同士の私的な交流も生まれる。Re-Union (同窓会) である。これを核に新たな活動が生まれる。

私の時代、同期生の出身地は全国に及んでいた、東海3県の出身者は稀であった。現在は8割を超えるそうである。地元企業に職を求める人が多いと聞く。教育内容の変化もあり、卒業生の減少で関東支部として存続が危ぶまれる単科会もある。益々支部活動が低下する一因にもなっている。大学も卒業生との交流・連携を深める為「卒業生連携室」を設置し、昨年から各人に「名工大メールアドレス (Gmail)」提供サービスも始めた。大学は卒業生に呼び掛けている。同時に卒業生同士での交流サイトとしての利用も期待し、大学の支援者としての名工会、各単科会の活性化を望んでいる。名工会、巴会本部は共に大学に応えようとしている。巴会関東支部は幸いにも多くの卒業生を抱えている。今一度大学に目を向け、そしてreunionの環に加わるのは如何であろうか。今年度の関東支部秋の集いにはより多数の方々のご参集をお待ちします。

磨け！未来のものづくりエンジニア

—学生フォーミュラプロジェクトの10年—

名古屋工業大学 学生フォーミュラプロジェクト

リーダー 畔柳 信 (機械工学科4年)

ファカルティアドバイザー 北村憲彦 (つくり領域)

1. 学生フォーミュラによる「ものづくり教育」

全日本学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—は2012年で10回目を迎えました。この大会は、学生が小型のフォーミュラ型の車両（タイヤが車体の外に出ている車）の設計・製作を通じて、実践的な「ものづくり」を体験する教育プロジェクトとして、(公社)自動車技術会が主催しています。全国から大学や高専、短大など80校近い参加があり、名工大は第1回大会から参加しています。

本大会では、より魅力的で商品価値のある車両を作ったチームが高く評価されます。車検を通ると、静的審査（3種目325点）と動的審査（5種目675点）を受けます。満点は1000点で、最も高い得点を得たチームが総合優勝します。

毎年少しずつ変更されるレギュレーションに従って、新しい車両を製作しなくてはなりません。大会終了は次の大会への準備の開始でもあり、大会までの準備期間は1年間と限られています。

普段の講義や実習とは違い、学生たちは高性能で魅力ある自動車を作り上げようと真剣です。一方、主催者側には、将来の自動車産業を支え、リードする人材を育てたいという切実感があり、後輩への温かさも感じられます。それに応えるかのようにこの1年で学生たちはずいぶん成長します。



名古屋工業大学では、ものづくり実践教育を特色とする省令施設として、学内に「ものづくりテクノセンター」が2002年4月に設置されました。翌年、このセンターのプロジェクトの一つとして、学生フォーミュラを支援することになりました。

2. 大会までの1年

9月に大会が終了したら、スポンサーへ大会結果を報告に回り、次回への決意を伝えます。次年度に向けての大会の参加規則（レギュレーション）とローカルルールの読み合わせに集中します。10月、今年取り組む新しい車両の構想を練ります。11月、仕様や設計概要を決め、基本設計を固めます。12月、構造解析や空力解析、エンジンの燃焼解析などをしながら、フレーム、シャシー、足回り、電装系、カウル（車体カバー）などを設計します。1月、旋盤など機械加工やワイヤーカット、溶接などを行って、部品を製作します。エンジンなど自分たちで直接製作できない物は、スポンサーからご提供いただくこともあります。また、寄付金集めにも回ります。巴会からもご寄附頂け、大変感謝しています。後期の試験期間は一休みして、3月にはフル操業で車両の製作を進めます。4月、シェイクダウン、学内で最小限の走行テストをします。5月、新入生を講習します。6月、安全構造同等性フォーム、インパクトアットネータ、デザインレポート・スペックシート、コストレポートなど必要書類を大会事務局に提出します。7月に支部主催の走行会では、できるだけ多くの不具合を見つけ、大会までに対策します。9月、いよいよ大会出場です。大会中にも新たな問題点が見つかってきます。

3. これまでの10年を振り返って

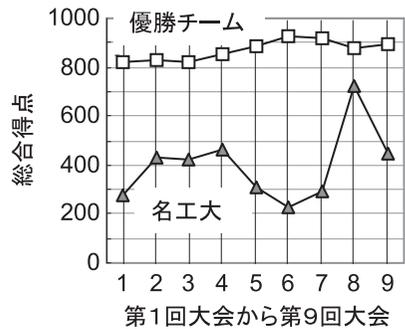
700点後半から上位入賞で、これまでの高得点は第6回大会で上智大学チームが出した923.28点です。ここは過去5回優勝の強者です。



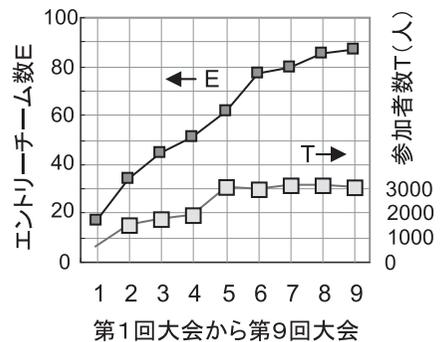
名工大チームは1回だけ700点を超えて、7位になりました。その年はこれまでの最少人数の14人で戦いました。人手不足を補ったリーダーとメンバーの努力の結晶です。それ以外の年の得点は低く、順位は全体の上から三分の一辺りです。これは車両トラブルによるエンデュランス審査でのリタイヤが原因です。エンデュランスで完走できたチームは、第1回大会から順に21%、35%、51%、47%、……、51%であり、3回大会以降の平均完走率は約50%です。1年間で完走できる車を仕上げることは大変なことです。名工大の最優先課題は、エンデュランス完走です。そうすれば、良い総合成績になることは間違いありません。

4. おわりに

日本の自動車業界は、総合的な自動車作りを体現した若い人材を求めています。効率を求め、専門化・分業化が著しく進み、昔に比べれば、若い技術者は自動車全体を知る機会が少ないまま、各要素に追われているという背景があるかもしれない。そのせいか大会中だけでなく、1年間を通じて企業の技術者からの熱いエールを感じます。多くのスタッフや支援者の誠意に応えられるように、我々も更に完成度の高い車両を目指します。



優勝チームと名工大チームの得点推移



全国大会エントリーチーム数と参加者数

関東支部便り

南北の領土問題、政権交代、ロンドン五輪と忙しい1年でした。平成24年度の巴会関東支部活動状況をご報告致します。

1. 関東支部の活動

巴会関東支部は名古屋工業会東京支部と軸を同じくして活動しており、工業会東京支部の下記行事に参加しています。

- ① 名古屋工業会東京支部総会：毎年11月に開催されます。併せて「巴会関東支部秋の集い」を開催します。
- ② ごきそサロン：年2回、講師を招いて様々なテーマでお話を伺います。本年度は6月13日（水）名工大OBE39卒織田満之氏による「原子力事故と今後のエネルギーについて(第2弾)」(出席者39名)。名工大准教授小坂卓氏による「省・脱レアース高出力密度モーターの研究開発状況」(同35名)の2回の講演会を開催しました。平成25年度は5月下旬若しくは6月上旬の開催を目途にテーマの探索中です。
- ③ エクスカーション：5月中旬から6月上旬の新緑の頃、「日本文化遺産を巡る」と題して関東各地の魅力溢れる名所を訪れています。ご家族ご同伴の参加も歓迎です。本年は5月12日（土）新緑の「富士名水めぐり」として山梨県の忍野八海、富岳風穴、静岡県の白糸の滝をバスツアーで実施しました。参加者は27名。25年度は5月連休明けを候補に行程を検討中です。
- ④ 東京棋友会：会員19名の囲碁の集まりです。毎週土曜日午後1時から、自由参加の形で定例会を開催しています。また、囲碁大会、九州工大交流戦、囲碁研修を兼ねての旅行会も開催しました。
- ⑤ 東京ゴルフ会：神奈川、千葉、埼玉のゴルフ場で年4回（4月、6月、9月、12月）開催されます。会員数47名、90歳台お二人を筆頭に平均年



H24年度エクスカーション「富士を背景に」

齢77歳の元気集団です。

支部総会・巴会秋の集いは巴会会員各位に書面でご案内しています。万が一、案内が届いていない方は本文末尾の北野迄ご連絡下さい。ごきそサロン以下の各行事の案内は名古屋工業会会誌「ごきそ」に掲載されますので、お申込み下さい。秋の集い同様北野迄ご連絡頂いても結構です。

2. 名古屋工業会東京支部関連

名古屋工業会が、平成25年4月1日を以て、一般社団法人となり、その組織制度として「代議員制度」が採用されます。東京支部選出7名の代議員に巴会から、M46北野良幸が選出されています。

3. 巴会関東支部秋の集い(兼工業会東京支部総会)

工業会東京支部総会は、平成24年11月8日(木)、KKRホテル東京に於いて開催されました。大学からは高橋学長はじめ、巴会副会長の水野教授(M53)、森教授(D52)、卒業生連携室 榎野様、工業会から篠田理事長(M33)、二杖常務理事(K39)をお迎えしました。高橋学長の来賓祝辞で「名古屋工業大学の近況」報告が行われ、大学の現状、大学憲章の制定、総合戦略本部を設置し新たな教育・研究への取り組み、国際交流、社会貢献等々について紹介されました。続いて篠田工業会理事長が「名古屋工業大学を支援する」として、工業会の活動方針について述べられました。

次に議事審議が行われ、各種議案が承認されました。その後、管弦楽団OBの弦楽四重奏の演奏を堪能し、和やかに懇親会が開催されました。今回の総会出席者は113名(前年度140名)その内巴会は13名(同20名)でした。巴会出席者は下記の様でした。

昭和10年代卒	1名
30年代卒	4名
40年代卒	5名
50年代卒	3名

4. 巴会関東詩日秋の集い(兼工業会東京支部総会)

次の要領で開催が予定されています。

日 時	平成25年11月9日(土)
	14:30 総会
	15:00 講演会
	16:30 懇親会

場 所 東京 中野 「中野サンプラザ」

前述の様に、この数年支部総会への出席者が減少気味にあります。阿部工業会東京支部長を中心に、都合3回の参加者動員策の検討が行われ、学年幹事の拡充整備、支部総会の土曜日開催等々が役員会にて承認されました。特に土曜日開催は、若手

が参加しやすい事、総会の場を各学年同窓会の場として利用して貰う等々、新しい試みとして期待されます。

巴会関東支部では460名の方に巴会関東支部秋の集い・工業会東京支部総会のご案内をしております。半数以上の方々から、近況を含め出欠の御返事を頂いております。ご返事の中には、平日の開催

故、時間的に無理との不参加理由が散見されます。25年度の秋の集い・支部総会は土曜日開催に加え、興味深いテーマでの講演会等準備方は張り切っています。この機会に、初めてご参加の方も、中野サンプラザ迄足を運んでみて下さい。

(M46 北野 良幸、関東支部長)

関西支部便り

巴会関西支部 平成24年度活動報告

1. 平成23年度の「巴会関西支部総会」

巴会関西支部総会が、来賓3名を含む総勢27名の参加で、7月1日(日)にJR大阪駅北「大阪弥生会館」で開催された。H22年卒のフレッシュOGを含む2名が初参加。総会に先立ち「講演会」を開催した。M45掛田支部長から「中国内蒙古自治区・モンゴル国の企業事情」と題して、前日に帰国したての最新情報を約1時間紹介。巴会大西副会長から、採用側から見た新卒者の就活状況およびユニークな地域への海外旅行経験談を紹介。M46松永氏から、昨年秋に台北市で開催した「第1回巴会関西支部海外合同同窓会」の概要報告。巴会関西支部総会では、工業会大阪支部岡崎副支部長の挨拶後、H23年度支部活動報告と決算、H24年度支部活動計画と予算案など順次報告、承認された。続く懇親会は、M22青木先輩の乾杯、新旧同窓会員の歓談の花が咲き、M28三宅先輩の一本締めで、お開き。来年は知的好奇心と懇親を満足させ、若手・現役・定年OBの参加者増加を図る企画に努力します。

2. 平成24年名古屋工業会大阪支部総会と大阪支部活動

11月17日に工業会大阪支部の定期総会を「大阪弥生会館」で開催。講演会はダイハツ工業(株)の伊那社長(前(株)トヨタ専務)。トヨタ元町工場長で部下2000名の名前・出身地・家族構成を全て覚えて融和を図るとともに、製造現場の常識を全面的に見直し、大幅なカイゼンを実施したこと。ダイハツでは、軽自動車で生き残ることを再度全社で確認し、世界戦略車を作り上げたことなど、通常では聞けない講話に参加者は感銘をうけた。特に初参加の若手は、トップ経営者の警咳に接したことに感激したとの感想。総会では、木越支部長が2年前から実施中の、単科会と工業会の見学会・講演会の融合、大阪支部と兵庫支部の活動の相互乗り入れ、今年から開始した35歳以下の会員を対象とした若手会、単科会連携委員会活動、春秋の歴史探訪会による散策の旅、光鯨会が毎月する講演会など、幅広い活動実績の報告とH25年度の活動継続が承認された。名工大の学術支援とOBの懇親を目的と

した公益社団法人名古屋工業会の衣替えに対応した、支部活動を活発化している。

3. 平成25年「第6回新年懇話会」

平成25年1月26日(土)に京都鞍馬の「くらま温泉」で12名の参加で開催。天然硫黄温泉の内湯と露天風呂にゆったりと浸かった後、M22青木先輩の発声で乾杯。M37野崎先輩から「赤穂火力発電所の放水路用ロボット開発」の苦労話と、オーストラリア国立公園旅行の思い出話を紹介。新年会終了後は希望者で雪が残る鞍馬寺を参拝、歴史に触れ、また本殿金堂からの素晴らしい景色を堪能した。

4. 巴会関西支部の懇親ゴルフコンペ

春季コンペは3月24日(土)に、東城陽ゴルフ倶楽部で開催、9名参加。かなり寒さも厳しい一日でしたが、順調に終了。秋季コンペは9月29日(土)に、宇治カントリークラブで開催、11名参加。優勝はM45佐治氏。

5. 平成25年度巴会関西支部活動計画

平成25年度の総会は6月22日(土)にバスによる播磨研究学園都市見学を計画中。春と秋のゴルフコンペを開催。10月末の第2回海外同窓会をマレーシア クアラルンプール市で計画し、参加者募集中。平成26年1月26日(土)新年懇話会を京阪神の温泉で開催予定。名古屋工業会大阪支部の若手会、単科会連携委員会、「ごきそ」技術士会に専任委員を決め、活動の幅を広げます。工業会大阪支部・単科会は、名工大の教授を大阪の単科会総会・講演会に招聘して名工大との連携を強化する方針を出しており、巴会関西支部も積極的に参加します。名工大卒業生であれば、巴会および他の単科会や工業会の行事に参加可能です。これらの情報は、名古屋工業会大阪支部のHPで確認できます。巴会・名古屋工業会会員となり、名工大から会員永久メール番号を取得され、名工大の学術活動にご支援いただくよう、また、支部活動への積極的な参加をお願い致します。

(M45 掛田 健二、関西支部長)

巴会運営便り

- 平成 24 年 6 月 2 日学内において、平成 24 年度巴会理事会・総会が開催され、全議案が承認されました。総会後の講演会では、フォーミュラプロジェクトから講師としてチームリーダーの畔柳信様、ファカルティアドバイザーの北村憲彦教授をお招きし、演題「磨け！未来のものづくりエンジニア自動車技術会フォーミュラプロジェクトの 10 年―」について大変興味深いご講演を拝聴しました。
- 平成 24 年 11 月 27 日に理事会が開催され、24 年度の活動計画・実績について議論・報告がなされました。平成 25 年 2 月 27 日に理事会が開催さ

れ、24 年度決算案、25 年度活動計画・予算案、理事交替等について協議・報告がなされ、新年度総会への対応・準備を行いました。

- 平成 25 年 3 月 23 日に、名古屋工業大学学生会館 1 階大食堂に於いて巴会主催の巴会賞授与式および卒業記念パーティが開催され、服部会長、多くの先生方並びに OB の参加で盛大なパーティとなりました。準備に当られた先生方に心より感謝します。

(H04 杉山 耕一、事業担当)

訃報 (次の方々のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り致します。)

S03 林 直三	S14 服部 吉隆	S20 味岡 喜兵衛	S24 内藤 武郎	S36 三井田 徳之助
S07 井門 泉	S15 今井 孝四郎	S20 飯谷 利治	S24 水野 高光	S39 西谷 正
S12 田中 衛	S15 小澤 龍雄	S20 石塚 小太郎	S25 玉田 一實	S41 宮下 蕉風
S12 村山 三郎	S16 小沢 高雄	S20 伊藤 実	S26 小池 鎌治	S44 大倉 恒彦
S13 朝内 忠夫	S16 梶田 二郎	S22 青木 和助	S26 古沢 基好	S46 上月 進
S13 池上 孝一	S16 志村 洋	S22 大池 正彰	S31 戸川 勝弘	S47 高橋 卓
S13 黒沢 寛夫	S16 染谷 数成	S22 高井 万水	S31 赤堀 正幸	S53 福安 富彦
S13 安井 専精	S17 森川 和男	S22 平田 嘉熙	S32 小野 武	
S13 米倉 貞次	S18 土屋 幸次郎	S23 加藤 宗平	S33 高橋 貞義	
S14 浅井 辰次	S18 内藤 勉	S23 古橋 義之	S33 船戸 忠和	
S14 葛島 金義	S20 浅井 義秋	S24 大江 義久	S36 奥村 知也	

平成 24 年度に巴会に連絡頂いた方々を掲載しています。

学内報告

〈人事異動〉

名古屋工業大学機械工学科、大学院機能工学専攻、情報工学専攻の機械系分野において、次の人事異動がありました。

〈着任〉 准教授 和坂 俊昭
 准教授 出口 真次
 准教授 大橋 美佐

〈ソフトボール大会〉

平成 24 年度 10 月 17 日 (水) の日程で設定され、予備日として 10 月 24 日 (水) が設定されました。総勢 18 チームが参加予定で、この日のために研究室で一丸となって練習などの準備が行われました。しかしながら、両日とも雨天とこれによるグラウンド状態の悪化という理由で、本年度は未開催に終わりました。(なお、初戦を突破したチームのため

にお弁当を用意していましたが、雨天中止となったためお弁当は参加チームで分けました。)

〈OBは語る会〉

平成 25 年 2 月 8 日 (金) に実施されました。就職活動中の学部 3 年生および大学院 1 年生を対象として、就職活動時の経験、学生へのアドバイス、会社の魅力、仕事の実態などを語っていただきました。当日は約 15 名の学生が参加して、講演者と活発な意見の交換が行なわれました。本年度、講演に来ていただいた OB・OG の方は、三井造船株式会社 小川将史さん (H24 院卒)、YKK 株式会社 西本亜里沙さん (H23 学部卒)、株式会社三五 湧川大さん (H17 年学部卒)、トヨタ自動車株式会社 山田雄一さん (H14 院卒) です。



今回講演いただいたOB・OGの皆様
左から小川将史さん(H24卒)、西本亜里沙さん(H23卒)、湧川大さん(H17卒)、山田雄一さん(H14卒)



服部会長の祝辞



「OBは語る会」講演の様子



歓談の様子

〈卒業式・卒業記念パーティー〉

平成25年3月23日に卒業式が挙行政され、その後、卒業記念パーティーが大会館1F大食堂で開催されました。水野巴会副会長の開会の辞に始まり、服部巴会会長の祝辞、巴会賞他、各賞の授与、江崎巴会顧問の祝辞挨拶、船橋巴会顧問による乾杯、研究発表旅費受給者スピーチ、ソフトボール大会についての報告、学生による謝辞、水野巴会副会長の閉会の辞をもって盛況の中に終了しました。なお巴会賞受賞者は2名で、賞状の他に副賞として記名入りの万年筆が贈られました。

★巴会賞 受賞者（敬称略）

第一部：佐藤匠、菱川詠二

また、その他の各賞の受賞者は以下の通りです。

★名古屋工業会賞 受賞者

第一部：安藤誠、水草遼

★日本機械学会畠山賞・三浦賞 受賞者

〔畠山賞〕

第一部：河口磨紀、高橋駿介

〔三浦賞〕

大学院：川上文啓、古賀和樹



研究発表旅費受給者スピーチ
(写真左：児玉文基君、右：那波正規君)



服部会長による巴会賞の授与（佐藤匠君）

～ Voice of Students ～

＝ 学会参加を通して＝

機能工学専攻 松本研究室 児玉文基

私は、去る2012年10月に青森県弘前市の弘前文化センターにおいて開催された日本機械学会 第23回バイオフロンティア講演会にて「骨芽細胞様細胞の骨分化に伴う細胞核の力学特性変化の計測 (Measurement of the mechanical properties of the nucleus during bone differentiation of osteoblastic cells)」と題して発表してきました。巴会から学会参加の援助を頂き、無事に発表を終えることが出来ましたので、ここに報告いたします。

私は、今回の学会において、骨を形成する骨芽細胞の前駆細胞である骨芽細胞様細胞が骨分化に伴い、細胞核の形態に変化が生じ、さらにその過程で細胞核の力学特性がどのように変化していくかについて発表してきました。自分の研究を多くの方の前で発表する機会はほとんどないため、とても緊張しましたが、指導教員の松本先生、長山先生の支援により、無事に発表を終えることが出来ました。

学会では、自分の研究内容を聞き手に限られた時間の中で伝える必要があるため、発表資料の作製ではアニメーションを使用するなどの工夫をして発表をしました。伝えることの難しさや重要性を感じる場としてもとても良い経験が出来たと思います。

質疑・応答では、他大学の多くの先生方から、その後の研究に関わる重要な意見を頂くこともでき、学会の重要性を感じました。

懇親会では、他大学の学生とも交流をすることができ、研究に取組む姿勢などを感じながらも楽しい時間を過ごすことができました。

最後ではありますが、この学会発表を通して私たちが得た経験を、以降もより多くの学生にも経験していただけるように今後も巴会からの援助をお願い申し上げます。そして、私にこのような貴重な支援をして頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。



＝ 学会発表を通して＝

機能工学専攻 北村研究室 那波正規

私は、去る2012年11月に北九州市の北九州国際会議場において開催された第63回塑性加工連合講演会にて「マイクロディンプルの潤滑効果に関するボール通し試験による評価」と題して講演に参加してきました。巴会から講演会参加の援助を頂き、無事に発表を終えることが出来ましたので、ここに報告いたします。

私は、今回の講演会にて自分の卒業論文研究の一部であるしごき加工における工具マイクロディンプルの潤滑効果に関する発表を行いました。冷間鍛造や冷間しごき加工における型と材料との間の潤滑状態を改善するために、型や材料に細かい凹部をつけることが試みられている。それらは、環境に配慮した潤滑技術をさらに進展させるために工業的に期待されています。本研究は、型につけた細かい凹部により潤滑状態を改善したことを示した内容です。本講演会では、塑性加工に特化した会議であるため、今後の研究につながるようなコメントを多く頂くことができました。

また、他の参加者の研究を直接聞くことが出来たことを含め本講演会では貴重な体験が出来たと思っています。さらに、塑性加工という分野の中でも、様々な技法、応用が考えられることを知り、大変勉強になりました。夜の懇親会で他大学の同世代の方とも研究のお話しをする機会があり、私の研究生活に対して刺激になりました。

最後ではありますが、この学会発表を通して私たちが得た経験を、以降もより多くの学生にも経験していただけるように今後も巴会からの援助をお願い申し上げます。そして、私にこのような貴重な支援をして頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。



ROAD TO DREAM !!

名古屋工業大学工学部付属ものづくりテクノセンター フォーミュラプロジェクト

大学講義を生かした実践形式の教育プロジェクト

当プロジェクトは、机上の講義を生かした「ものづくり」を実際に体験することで、若手エンジニアを育成する教育プログラムの一環として2002年から始動しました。

毎年9月に行われる“全日本学生フォーミュラ大会”に出場するために、学生自ら車両の設計、製作だけでなく、会計管理、資金調達、渉外スポンサー活動を初めとした運営マネジメントも学生のみの力で行ってあります。

昨年度大会では、トラブルによりリタイヤしてしまい出場チーム82校中34位と大変悔いが残る結果となりました。海外チームの参戦などにより大会のレベルが上がっており、より高いポテンシャルが必要ですが、私達の車両のポテンシャルは上位校と引けをとらないものだと確信しました。しかしトラブルによるリタイヤが続いているので、今年度はポテンシャルだけでなく信頼性も高い車両を製作し、表彰台獲得を目指しメンバー一同日々努力しています。

私達の活動は巴会の皆様を支えられており、今年度も資金的援助を戴きました。誠にありがとうございました。



山内 雄介 (ヤマウチ ユウスケ)

リーダー：機械工学科4年

名古屋工業大学11号館107室

Tel : 090-8458-7131, Fax : 052-735-5629

Mail : nit_formula_project@yahoo.co.jp

http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/

平成 24 年度 卒業生の進路・就職先

■ 大学院 修了者

アイシン・エアアイ(株)
アイシン・エイダブリュ(株)
アイシン精機(株)
愛知製鋼(株)
(株)アドヴィックス
(株)アルトナー
井関農機(株)
兼房(株)
川崎重工業(株)
川重岐阜エンジニアリング(株)
関西電力(株)
(株)クボタ
小糸製作所(株)

コニカミノルタホールディングス(株)
(株)小松製作所
三精輸送機(株)
新日鐵住金(株)
積水化学工業(株)
(株)デンソー
東海旅客鉄道(株)
東芝プラントシステム(株)
東邦ガスエンジニアリング(株)
トヨタ自動車(株)
(株)豊田自動織機
トヨタ車体(株)
トヨタ紡織(株)
日本ガイン(株)
日本特殊陶業(株)
日本発条(株)
(株)リタケカンパニーリミテド
パナソニックエコシステムズ(株)
(株)日立ソリューションズ
富士重工業(株)
ブラザー工業(株)
ホシザキ電機(株)
本田技研工業(株)
マツダ(株)
(株)マキタ
三菱レイヨン(株)

三菱自動車工業(株)
三菱重工業(株)
三菱電機(株)
(株)森精機製作所
ヤマハ発動機(株)
公益財団法人 鉄道総合
技術研究所
豊橋市役所
名古屋工業大学大学院

■ 学部 第一部 卒業生

CKD(株)
アイシン・エイダブリュ(株)
アイシン・コムクルーズ(株)
アイシン精機(株)
愛知機械工業(株)
(株)青山製作所
(株)今仙電機製作所
(株)エクシード
エナジーサポート(株)
(株)MCOR
オークマ(株)
兼房(株)
京セラドキュメント
ソリューションズ(株)
倉敷化工(株)
(株)ジェイ・エム・エス
ジャトコエンジニアリング(株)
(株)スギノマシン
スズキ(株)
住友ナコ マテリアル
ハンドリング(株)
ゼネラルパッカー(株)
(株)セントラルヨシダ
大同特殊鋼(株)
竹田設計工業(株)
デンソーテクノ(株)
(株)トーエネック
東海旅客鉄道(株)

東芝プラントシステム(株)
東邦ガス(株)
トヨタ車体(株)
(株)トヨタプロダクション
エンジニアリング
(株)長倉製作所
長瀬産業(株)
新潟原動機(株)
ニチコン(株)
日本アルシー(株)
日本車輛製造(株)
日本電産(株)
日本トックス(株)
林テンプ(株)
フタムラ化学(株)
ブラザー工業(株)
三重県職員
(株)村田製作所
(株)明電舎
(株)モビテック
ヤマハモーター
エンジニアリング(株)
ローランド ディー・ジー.(株)
羽島市役所
名古屋工業大学大学院
豊橋技術科学大学大学院

■ 学部 第二部 卒業生

アイシン・エイダブリュ(株)
(株)今仙電機製作所
三洋機工(株)
日本国土開発(株)
碧海工機(株)
(株)マクシス・シントー

(株)モビテック
(株)ユタカ技研

自衛隊
病院(企業名未定)

平成 25 年度 巴会理事会・総会 議題資料

(1) 平成 25 年度役員名簿 (案)

<p>会 長：松原 十三生 (名古屋工業大学名誉教授、S36)</p> <p>副 会 長：学外・大西 一 (S49) 学内・水野 直樹 (教員)</p> <p>理 事：北野 良幸 (S46、関東支部長) 掛田 健二 (S45、関西支部長) 宇佐美 勝 (S48) 新美 重秋 (S50) 辻 秀武 (S50) 仙石 武広 (S59) 石川 拓生 (S60) 富田 庸公 (H01) 武内 博明 (H01) 大島 成通 (H02) 杉山 耕一 (H04) 佐野 明人 (教員) 坂口 正道 (教員) 山田 学 (教員) 土田 陽一 (教員) 石野 洋二郎 (教員) 長谷川 豊 (教員) 牧野 武彦 (教員) 鈴木 博貴 (教員) 玉野 真司 (教員) 早川 伸哉 (教員) 伊藤 智啓 (教員)</p>	<p>監 事：学外・近藤 邦治 (S45) 学内・松本 健郎 (教員)</p> <p>最高顧問：山田 豊 (S22)</p> <p>特別顧問：金原 淑郎 (S25)</p> <p>顧 問：岩月 央 (S19) 船橋 鉦一 (S28) 山中 由男 (S29) 石川 宏 (S30) 大河内 禎一 (S31) 塩見 正直 (S34) 木村 金治 (S35) 成田 政敏 (S35) 江崎 俊夫 (S38) 長野 靖尚 (S41)</p>
--	--

(2) 平成 24 年度事業報告 (案) および平成 25 年度事業計画 (案)

	平成 24 年度事業報告	平成 25 年度事業計画
会報	「ともえ」No.46 発行 H24.5	「ともえ」No.47 発行 H25.5
総会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H24.6.2	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H25.6.29
講演会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H24.6.2 講師：チームリーダー 畔柳 信 様 ファカルティアアドバイザー 教授 北村 憲彦 先生	名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室 H25.6.29 講師：名古屋工業会理事長 篠田 陽史 様 (S33)
総会 付随行事	学生製作のフォーミュラカーの見学	研究室解放 1. 佐野・田中研究室 (担当：佐野教授、田中助教) 21 号館 4 階 417 室 2. 流体力学グループ研究室 (担当：森西教授・玉野准教授、長谷川教授・ 牛島准教授・鈴木助教) 14 号館水力実験室 学生製作のフォーミュラカーの見学
懇親会	名古屋工業大学 校友会館 H24.6.2	名古屋工業大学 校友会館 H25.6.29
支部	(1) 関西支部総会・懇親会 H24.7.1 新年 (懇話) 会 H25.1.26 (2) 関東支部秋の集い H24.11.8	(1) 関西支部総会・懇親会 H25.6.22 新年 (懇話) 会 H26.1.26 (2) 関東支部秋の集い H25.11.9
学内事業	(1) ソフトボール大会 中止 (予備日含め雨天のため) (2) OB は語る会 H25.2.8 (3) 工場見学会補助 H24.11.15 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー H25.3.23 (5) 院生学会出席補助 (6) フォーミュラカー製作補助	(1) ソフトボール大会 (2) OB は語る会 (3) 工場見学会補助 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー (5) 院生学会出席補助 (6) フォーミュラカー製作補助
会議	理事会 (3 回)	理事会

(3) 平成 24 年度 会計報告案 (2012. 4. 1~2013. 3. 31)

(4) 平成 25 年度 予算案 (2013. 4. 1~2014. 3. 31)

[一般会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,435,581	会報発行発送費	1,047,732
クラス会費	101,400	支部補助	250,000
終身会費	1,316,560	総会/講演/懇親会	271,180
(卒業生)	(576,560)	学内事業補助	567,894
(在学生)	(740,000)	名簿整備費	271,909
総会懇親会参加費	111,000	会議費	190,320
受取利息	322	事務通信費	134,019
		(支部通信費含む)	
工業会名古屋支部補助	140,000	運営費・雑費	27,615
基金会計から補助	845,000	次年度への繰越	3,189,194
合計	5,949,863	合計	5,949,863

[一般会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,189,194	会報発行発送費	1,150,000
クラス会費	100,000	支部補助	250,000
終身会費	1,200,000	総会/講演/懇親会	300,000
(卒業生)	(200,000)	学内事業補助	695,000
(在学生)	(1,000,000)	名簿整備費	250,000
総会懇親会参加費	200,000	会議費	100,000
受取利息	1,000	事務通信費	100,000
		(支部通信費含む)	
工業会名古屋支部補助	70,000	運営費・雑費	50,000
基金会計から補助	845,000	次年度への繰越	2,710,194
合計	5,605,194	合計	5,605,194

[基金会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	14,992,842	一般会計へ補助	845,000
受取利息	4,193		
		次年度へ繰越	14,152,035
合計	14,997,035	合計	14,997,035

[基金会計]

収 入		支 出	
前年度繰越金	14,152,035	一般会計へ補助	845,000
受取利息	4,000		
		次年度へ繰越	13,311,035
合計	14,156,035	合計	14,156,035



正門から構内を望む

巴 会 会 歌

作詞 井上俊一 (明四十三卒)
作曲 宮崎安兵衛 (リ)

- 一. 正気籠れる東陵に
誓も堅き健児等が
健実の気風樹立して
不撓不屈の旗高し
フレフレ
- 二. 高き自覚に溢る意気
確き自信に腕の業
若き健児が鍛え得し
稜々気骨の血は躍る
フレフレ
- 三. 汚穢紛々の文明に
憂国義憤の人あらば
血潮と汗に清らけき
巴の健児が誠きけ
フレフレ
- 四. 春妖香の霞わけ
秋壮烈の霜を踏み
集いて健児紫旗影に
永久の団結歌うなり
フレ機械フレ機械
機械機械フレ
フレ機械フレ機械
機械機械フレ

平成 25 年度巴会理事会・総会のご案内

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）

場所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 0321 講義室

理事会・総会 14:00～14:50

講演会 15:00～16:00

演題：「耀く、ますます耀く母校を願って

一名古屋工業大学と名古屋工業会は何をしようとしているかー」

講師：名古屋工業会 理事長 篠田 陽史 様 (S33)

懇親会 16:10～

(校友会館1階 カフェサラ にて)

会費：OB・OG 5,000 円、学生 500 円

(懇親会に出席される方)

ただし、ご卒業後 5 年以内、

10 年目（平成 15（2003）

年卒）、40 年目（昭和 48

（1973）年卒）の OB・OG

に関しましては、特別に 3,000 円

とします。

お誘い合わせの上、是非、ご参加下さい。

申込：ハガキまたは電子メールにて

6 月 14 日（金）までにお申し込み下さい。

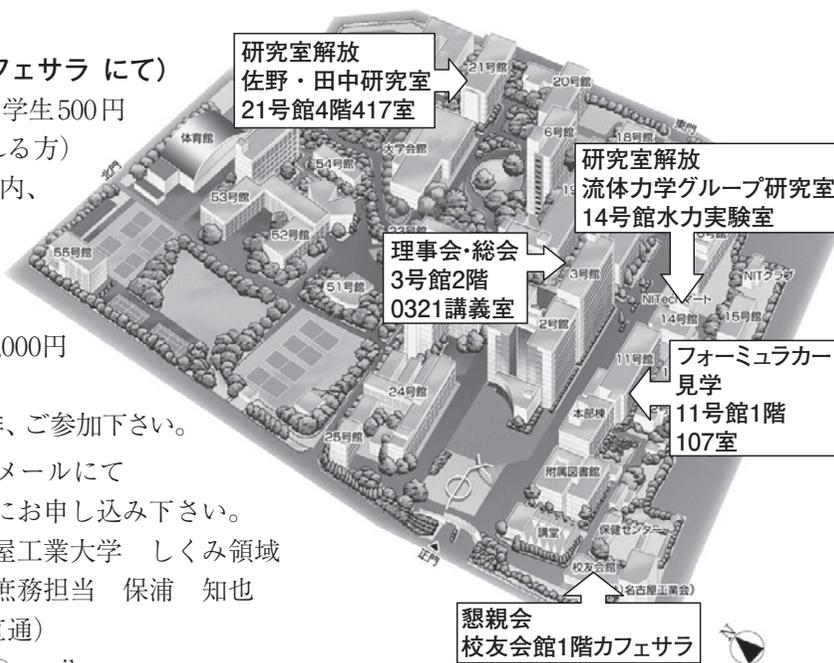
宛先：〒466-8555 名古屋工業大学 しくみ領域

巴会庶務担当 保浦 知也

電話：052-735-7795（直通）

E-mail：tomoekai.nitech@gmail.com

※自家用車の乗り入れは、なるべくご遠慮下さい。



巴会総会付随行事 [平成 25 年 6 月 29 日（土）]

○研究室解放：12:30～13:00（1 回目）、13:00～13:30（2 回目）

1. 佐野・田中研究室（担当：佐野教授、田中助教） 21 号館 4 階 417 室

内容：「歩行・走行、触覚研究の紹介」

2. 流体力学グループ研究室

（担当：森西教授・玉野准教授、長谷川教授・牛島准教授・鈴木助教） 14 号館水力実験室

内容：「流体工学・流体機械に関する実験設備（風洞設備など）の紹介」

○フォーミュラカー見学：13:30～13:50 11 号館 1 階 107 号室

学生が製作したフォーミュラカーを見学（プロジェクトリーダー：機械工学科 4 年生 山内 雄介 君）

上記の付随行事に参加希望の方は、12:15 頃までに総会受付（3 号館 2 階 0321 講義室）にお越し頂ければご案内します。なお、本年はオープンキャンパスと同時開催ではありません。